

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572306215
法人名	有限会社ヘルスケア悠愛
事業所名	グループホームゆうあい
所在地	秋田県男鹿市弘戸字渡部114-3
自己評価作成日	平成24年3月1日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは静かな住宅地にあり、創業者が自らの福祉理念を地域に還元することを目的として開設された。「だれでも、いつでも、気軽に、みんなと共に、助けあい、心豊かに、安心して生活できる」ホームを目指して、職員が皆努力している。地域住民との交流の取り組みとして、週一回のカラオケ大会の開催や、地域への行事・祭典の参加などを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田ハッピーライフセンター
所在地	秋田市將軍野桂町5-5
訪問調査日	平成24年3月12日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の環境は、県道を挟んで郵便局、商店、学校、保育所、寺などが点在する静かで便利な住宅地にあります。古い家屋を改修した建物は、昔ながらの漆塗りの建具などが使われており、利用者の方々には我が家のような親しみを与えているようです。地域とは、なまはげ・祭典・夏祭り・秋の文化祭などの行事への参加や、町内会活動への参加、さらに、ほぼ毎週土曜日のカラオケ大会を通じて、非常に密接な関係を築いています。さらに、季節ごとの野菜・山菜・魚介などの差し入れや施設設備の営繕などでも地域の方々に支えられています。また、毎朝「朝の会」を行い、職員と一緒にモットーである「出来ることは進んでやり、出来ないことは助け合い、楽しく元気に過ごす」を唱和し、利用者の先導でその月の歌を歌って、一日が始まります。24年3月にはスプリンクラーが設置され、同時に「消防計画」も作成されており、安心して生活が出来るように実践されている施設です。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲げられているが、個々の職員への浸透が十分ではない。	企業理念が全職員に浸透するにはまだ時間がかかりそうだとのことですが、利用者の安らぎのために、常に一緒に寄り添うことを基本として、支援を実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を招いて、およそ週一回のカラオケ大会を開催している。祭典やナマハゲ等の地域の行事に参加している。	お祭り、秋の文化祭、盆踊りなどに積極的に参加するほかホーム内でほぼ毎週開催されているカラオケ大会には、利用者も参加して楽しい時間となっています。町内会のごみ当番や道路清掃を行なっているほか、中学校の社会科授業の生徒の見学も受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域貢献としては、十分ではない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	諸事情により、運営推進会議は行われていない。今後速やかに開催する。	地域、行政との連携が良好に行なわれている中で当会議が開催できない大きな理由は、人員に余裕がないことだとしています。同業他施設から情報を得ながら開催に向けて努力したいとしています。	昨年に引き続き、他施設との情報交換などをする中から、会議開催に向けて工夫されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市内のグループホームと合同で市担当者との懇談している(年1回程度)。相談のため市役所庁舎を不定期に訪問している。今後は運営推進会議に招いて、市担当者との関係を築きたい。	行政とは各ケースごとに連絡を取り合いながら支援に取り組んでいます。また、市内グループホーム合同の懇談会や、南秋・湯上地域との情報交換も積極的に行なっています。今年度スプリンクラーが設置されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、身体拘束は行わない。全職員に周知されている。	身体拘束をしないための基本を利用者に寄り添うこととし、見守る姿勢を忘れないよう周知されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めている。高齢者虐待防止関連法についての学習の機会には十分ではない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と、それを補佐する者は、制度の理解と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と納得については十分になされている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族の意見の反映は、日々の業務の中で、受けとめて反映しているが、典型的な外部者へ表せる機会の設置は十分ではない。	利用者家族からの意見は特に聞かれませんが、面会時は食堂を利用して和やかに過ごしており、利用者はその後の体調も良いようです。面会を利用しながら、利用者ご家族とのつながりを深め、支援に活かされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見の反映は、日々の業務の中で、受けとめて反映しているが、定型的な機会の設置は十分ではない。	定期的な会議は行なわれていませんが、日々の申し送り簿によって、利用者の姿を把握し、支援に活かしています。職員同士の意見交換も活発に行なわれています。個々の職員の希望によってスキルアップのための研修を受講されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と会社の人事担当者が、会社の経営状況・規模の範囲内で、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事担当者が、職員のシフト、人員基準への対応において可能な範囲内で、研修を受ける機会等を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内と周辺市町村エリアのグループホーム連絡会に入会しており、合同の交流会や勉強会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応は、主にケアマネージャーが中心になって、ご本人の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応は、主にケアマネージャーが中心になって、ご家族との信頼関係を確保するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	十分に留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	十分に留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅一時帰宅への送迎、付き添い、ご本人の希望される商店での買い物、希望される医療機関への通院等を支援して、十分に留意している。	利用者を理解し、これまでの関係性を継続できるように支援しています。通院、一時帰宅の送迎(お盆の準備)、買い物、敬老会出席などに付き添い支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	十分に留意している。閉ざされた個室でなく開放的な個室で、孤立を防いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去には、終末期での退所がほとんどであり、利用終了後の関係の維持については、あまり必要ではなかったため、取り組んでいない。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分に留意している。	センター方式のアセスメントにより、個々のアセスメントノートを作成し、日々記入することにより支援に活かされています。一方では、利用者の日々の行動、表情から意向を汲み取り支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分に留意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	十分に留意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	十分に留意している。	利用者本位の支援が行なわれていますが、介護計画が作成されていません。	介護計画を早急に作成されるように期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	十分に留意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる <b>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする</b>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分に留意している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族が希望される場合、かかりつけ医、かかりつけ薬局の利用を支援している。	近隣のかかりつけ医と連携しながら、夜8時ごろまでの往診、インフルエンザの往診による予防接種が出来ます。医療機関の受診後はご家族に詳細に報告されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護職等と、適切に協働をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分に留意している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分に留意している。	重度化や重症化に対しては、介護職員が出来るぎりぎりのところまで支援しています。この場合、通院にはご家族も同行されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	十分ではない。早急に訓練を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分ではない。早急に訓練を行う。また、地域の消防団と交流している。	避難訓練は、周辺住民が参加される中で、年2回実施されています。また日ごろから、消防団による避難経路の確認等が行なわれ、24年3月新規に「消防計画」が策定されています。スプリンクラー、火災報知機を設置、非常食を常備しています。	避難訓練の実施記録を残すことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分に留意している。	職員一人ひとりが利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら、支援に当たっています。特に、トイレの男女の使い分けについて、職員が気配りをしています。	昨年に引き続き、個人情報の取扱について方針を定め、利用者・ご家族の同意を得るための工夫をされることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分に留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分に留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	洋服店、クリーニング店や美容室へ通うことへの支援を行い、十分に留意している。外出が困難なご利用者には、センスの良い理容師を紹介して、訪問にて整髪などをされる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	十分に留意している。	畑で収穫したやさいを食材として利用されています。また、地域の山海の食材をふんだんに取り入れた献立は好評で、利用者ごとの健康状態、嗜好を加味して量を調整し完食を心がけています。行事のある日は出前を取って楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、十分にケアをしている。また、かかりつけ歯科医の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	十分に留意している。	排泄チェック表により排泄パターンを知り、少なくとも現状維持が出来るように支援しています。便秘薬服用と排便を表によりチェックしながらコントロールされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分に留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームが小規模であり、職員数により、使用者主体の希望のタイミングで入浴を提供することが困難な状況である。現在は曜日を決めて週2回の入浴である。	週2回の入浴を行なっています。入浴を嫌がる人への声かけや、代わりに足湯・清拭など利用者ごとに配慮しながら支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分に留意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	十分に留意している。300メートル程度離れたところに庭・畑があり土いじりを楽しむことができる	車椅子利用の利用者が増えてきたため、一斉の外出には工夫を凝らしています。通院の機会を捉えて外食や買い物をするもあります。冬季の外出はリスクが高いため回数が減りますが、雪やつららをホーム内に持ち込んで、季節感を感じてもらおうなどされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	十分に留意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	十分に留意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家を改修したホームで、予算の都合もあり、あらゆる点で十分であるとはいえないが、施設の状況内で、常に努力している。	古い一般住宅を改修した事業所のため、建具等にその名残が見られ懐かしい大家族の雰囲気が醸しだされています。庭から明るい陽射しが差し込み、療養中の利用者のベッドも皆から見守られる場所に置かれています。「朝の会」では利用者中心に元気に歌を歌い、モットーを唱和して一日をスタートさせています。月ごとに写真・絵・歌の歌詞を取り替え、気分転換が図られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている <b>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする</b>	小さく狭いホームで、あらゆる点で十分であるとはいえないが、施設の状況内で、常に努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分に留意している。しかし使い慣れたものや好みのものの持ち込みに関しては、ご家族の理解を得られず新品の家具が持ち込まれることがある。	各居室は畳敷きとフロアがあり、それぞれの部屋は、十分に個性を感じとることができます。総じて明るく、きちんと整頓されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分に留意している。		